

漁海況月報

令和3年12月1日

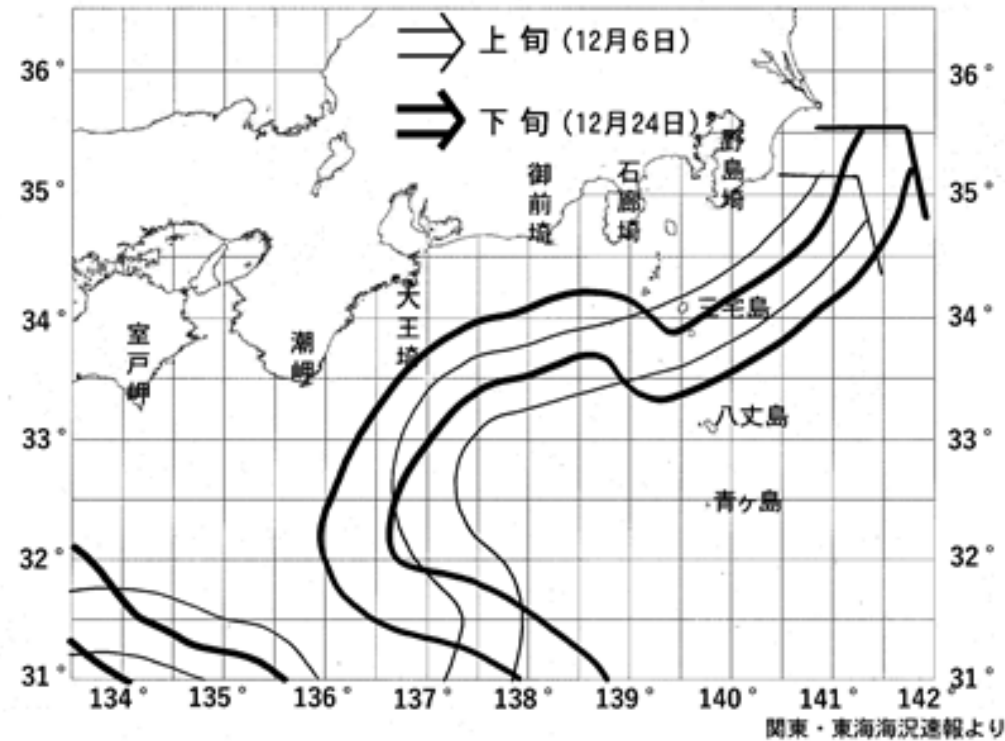
No. 12 ~12月31日

静岡県水産・海洋技術研究所

(電話 054-627-1815)

静岡県水産・海洋技術研究所 伊豆分場

(電話 0558-22-0835)



12月定地水温の旬平均値(°C) (下段は平年*偏差)

期間	伊東	稲取	下田	雲見	沼津	焼津
上旬	16.8	17.9	17.5	19.1	17.8	18.0
	-1.1	-0.6	-0.8	0.9	-0.3	-0.1
中旬	17.0	17.6	17.0	17.7	17.0	17.5
	0.1	0.0	-0.3	0.5	-0.1	0.5
下旬	15.2	16.3	15.6	16.5	15.6	16.2
	-1.0	-0.4	-1.0	0.0	-0.7	-0.2
月	16.3	17.3	16.7	17.7	16.8	17.2
	-0.7	-0.3	-0.7	0.4	-0.4	0.0

*地頭方の水温観測は終了しました。

*2021年平年値(1990-2020年の30年平均値)

【黒潮流路】

潮岬を大きく離岸した後に大王崎沖—遠州灘沖付近から遠州灘沖—石廊崎沖までS字状に北上する流路となった。

上旬は潮岬を大きく離岸し、大王崎沖29.5°N付近から石廊崎沖までS字状に北上する流路となり、熊野灘、遠州灘、駿河湾、大島東・西水道に向けて暖水波及が見られた。

中旬は潮岬—大王崎を大きく離岸し、遠州灘沖29.5°N付近から遠州灘までS字状(上旬より緩やかな)に北上する流路となり、北上部が大王崎に接近した。また、熊野灘、遠州灘、大島東・西水道に

向けて暖水波及が見られた。

下旬は潮岬を大きく離岸し、大王崎沖29.5°N付近から石廊崎沖までS字状に北上する流路となり、上、中旬よりS字が屈曲し、屈曲部が潮岬へ接近した。また、熊野灘、遠州灘、大島西水道に向けて暖水波及が見られた。

【県下沿岸域】

上旬は伊東、稲取、下田で「やや低め」、沼津、焼津で「平年並」、雲見で「やや高め」であった。中旬は伊東、稲取、下田、沼津で「平年並」、雲見、焼津で「やや高め」であった。下旬は伊東、下田、沼津で「やや低め」、稲取、雲見、焼津で「平年並」であった。

【竿釣カツオ】

12月の県内主要5港(沼津、清水、焼津、小川、御前崎)における近海及び沿岸竿釣り船によるカツオの水揚げは20.0トンであり、魚価は639円/kgであった(前年同月水揚げなし)。

漁場は34-35°N、139-140°Eの伊豆諸島北部海域などであり、御前崎港で測定した魚体サイズは、中(尾叉長51cm)を主体に、小(尾叉長49cm)などであった。

竿釣り(近海+沿岸船)カツオ水揚量(県内主要5港)

期間	水揚量(トン)	水揚隻数	平均水揚量/隻(トン)	平均単価(円/kg)
R3年12月上旬	10.8	6	1.8	805
中旬	8.6	6	1.4	413
下旬	0.6	2	0.3	900
R3年12月計	20.0	14	1.4	639
R2年12月計	0.0	0	-	-
R1年12月計	0.0	0	-	-

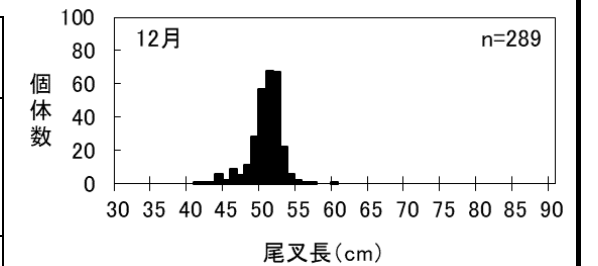


図 御前崎港で測定したカツオの尾叉長組成

【定置網】

伊豆半島東岸大型定置網7か統(伊豆山、古網、川奈、富戸、赤沢、北川、谷津)の水揚量は238.9トンで、前年(139.2トン)の1.7倍、平年(290.5トン)の82%であった。また、1か統あたりの水揚量は34.1トン(前年:19.9トン、平年:41.5トン)であった。水揚量の多い漁場は、北川漁場(53.6トン、マルソウダ、さば類、スルメイカ)、次いで川奈漁場(36.3トン、さば類、マルソウダ、スルメイカ)であった。

多獲された魚種の水揚量は次頁(表)のとおりで、さば類は57.8トンで、前年比91%、平年比79%であった。水揚げされたさば類のうち、マサバは14.8トンで、前年比1.3倍、平年比3.7倍、ゴマサバは43.0トンで、前年比83%、平年比60%であった。マルソウダは50.0トンで、前年比2.6倍、平年比5.1倍であり、12月の水揚量としては昭和57年以降、最も多かった。スルメイカは33.8トンで、前年比6.4倍、平年比1.1倍であった。フグ類は20.2トンで、前年比9.3倍、平年比4.0倍であった。水揚げされたフグ類はクロサバフグ主体で、魚体は全長25~35cmであった。ムロアジは12.5トンで、前年比25.5倍、平年比68.3倍であり、12月の水揚量としては昭和57年以降、最も多かった。その他の魚種については、クロマグロ、サワラ、クサヤモロ、マダイが、12月の水揚量としては昭和57年以降、最も多かった。

多獲された魚種の主な漁場は次頁(表)のとおりで、各漁場の水揚量の割合は、さば類では北川漁場が25%(14.4トン)、川奈漁場が21%(12.1トン)、マルソウダでは北川漁場が38%(19.0トン)、古網漁場が20%(9.8トン)、谷津漁場が15%(7.4トン) スルメイカでは谷津漁場が34%(11.5トン)、富戸漁場が22%(7.4トン)、北川漁場が17%(5.8トン)、フグ類では伊豆山漁場が51%(10.2トン)、古網漁場が24%(4.7トン)、ムロアジでは富戸漁場が39%(4.9トン)、川奈漁場が21%(2.6トン)を占めた。

*平年:昭和57年~令和2年の平均値

(表) 多獲された魚種の水揚量と主な漁場

魚種	水揚量(トン)	前年比	平年比	主な漁場
さば類	57.8	0.91	0.79	北川、川奈
マルソウダ	50.0	2.59	5.11	北川、古網、谷津
スルメイカ	33.8	6.36	1.07	谷津、富戸、北川
フグ類	20.2	9.31	4.04	伊豆山、古網
ムロアジ	12.5	25.53	68.30	富戸、川奈

[サバたもすくい]

小川港所属の棒受網漁船は月を通じてたもすくい漁業主体で操業し、漁場は千波に形成された。水揚量はゴマサバ234トン(前年同月比83%)であり、1隻あたり水揚量は19.5トン(前年同月比90%)であった。マサバは前年同月同様、ゴマサバに僅かに混じる程度であった。

1kgあたり平均単価は124円で前月(138円)を下回り、前年同月(102円)を大きく上回った。水揚されたゴマサバの体長は33cmにモードを持つ単峰型を示した。

小川港 さば類(棒受網・たもすくい)水揚量

期 間	水揚量(トン)		水揚日数	水揚隻数	水揚/隻(トン)		単価(円/kg)		漁 場
	マサバ	ゴマサバ			マサバ	ゴマサバ	マサバ	ゴマサバ	
R3年12月上旬	0	129	4	5	0	25.7	147	128	千波
中旬	0	84	3	6	0	14.0	108	119	千波
下旬	0	22	1	1	0	21.8	92	116	千波
R3年12月計	0	234	8	12	0	19.5	127	124	千波
R2年12月計	0	281	7	13	0	21.6	216	102	千波
R1年12月計	—	127	7	17	—	7.5	—	130	三本、利島

*水揚量については、旬ごと、魚種ごとに四捨五入しているため月計と一致しないことがある。

[サクラエビ船曳網]

令和3年の秋漁は12月23日で終漁した。12月の出漁日数は7日、水揚量は75.2トンであった(前年同月の出漁日数は5日、水揚量は44.3トン)。主漁場は吉田沖～相良沖であった。水揚げされたサクラエビの体長組成は31mm付近にモードを持つ当歳エビと39mm付近にモードを持つ1歳エビから構成されていた。

サクラエビ水揚量

期 間	水揚量(トン)	日数	漁 場
R3年12月上旬	50.6	4	吉田沖～相良沖
12月中旬	10.4	1	吉田沖～相良沖
12月下旬	14.1	2	吉田沖～相良沖
R3年12月計	75.2	7	—
R2年12月計	44.3	5	大井川沖～相良沖
R1年12月計	32.1	7	焼津沖～相良沖
H30年12月計	秋漁操業なし	操業なし	操業なし

[シラス船曳網]

県内主要6港における1日1か統当りの水揚量は、駿河湾(静岡、吉田)が124kg、遠州灘(御前崎、福田、舞阪、新居)が270kgであった。平均水揚量は195kgと前年同月(146kg)の1.3倍、前年同月(過去5か年平均:135kg)の1.5倍であった。また、総水揚量は166.7トンで前年同月(115.7トン)の1.4倍、前年同期(92.1トン)の1.8倍と、前年、前年を上回った。平均単価は770円/kgと、前年同月(1,060円/kg)の72.6%、前年同月(1,364円/kg)の56.4%と、前年、前年を下回った。

シラス水揚量(主要6港)

漁 港	水揚量(トン)	延日数	延統数	平均水揚量(kg/統)	平均単価(円/kg)
新 居	13.3	6	37	359	656
舞 阪	49.8	6	179	278	689
福 田	26.9	6	131	205	676
御前崎	22.5	7	69	327	831
吉 田	29.7	10	260	114	884
静 岡	24.5	11	177	138	904
R3年12月計	166.7	46	853	195	770
R2年12月計	115.7	38	791	146	1,060
R1年12月計	22.1	25	401	55	1,847

*各港の数値は四捨五入しているため、各港合計と月計の値は一致しない場合がある。

*平年:過去5か年(平成28～令和2年)平均値

[まき網(いわし類)]

マイワシ、カタクチイワシは、伊東港、静浦港、沼津港、小川港いずれも水揚げがなかった。

なお、伊豆半島東岸の大型定置網7か統の水揚量は、マイワシは2.1トン、カタクチイワシは水揚げがなかった。

[調査船駿河丸の動向]

12月3日	～	12月3日	公共用水域水質測定調査	(1日間)
12月7日	～	12月8日	地先定線観測調査	(2日間)
12月15日	～	12月16日	いわし類卵稚仔分布調査	(2日間)
12月22日	～	12月22日	MaOI マイクロプラスチック調査	(1日間)

静岡県水産・海洋技術研究所のホームページ

パソコンからは..... <https://fish-exp.pref.shizuoka.jp/>

携帯電話からは..... <https://fish-exp.pref.shizuoka.jp/mobile/>

右のQRコードをご利用ください。人工衛星NOAAの海面水温分布画像と関東・東海海況速報を見ることができます。

